



想像力の
歴史そのものを
記述しつづける

Hiroshi
Aramata

荒俣 宏

荒俣宏氏の妻は、幻想も科学も、その領域を超越して「人が生み出してきたあらゆる存在を記述しよう」という取り組みにある。その仕事からは、「科学は、理系だからこそ文化を学び受容すべきだ」というメッセージが聞こえてくる。

大ヒット小説で得た 印税を資料代に

『世界大博物図鑑』を執筆

荒俣氏は正体不明の人だ。テレビ番組で見せる穏やかで楽しい語りの裏にある博覧強記の知の広さと深さに触れると、「荒俣宏とは何者ですか」と質問したくなる。

会社員時代からSFを翻訳し、独立後、世間はその名を知られるきっかけになったのが『帝都物語』シリーズ。平将門の怨霊により帝都破壊を目論む魔人と、それに立ち向かう人々の攻防を、博物学や神秘学、陰陽道などの知を総動員して描いた壮大な物語だ。

『帝都物語』で得た多額の印税は、惜しげもなく次なるライフワークの資料代につき込んだ。そして10年をかけて完成させたのが『世界大博物図鑑』（5巻+別巻2巻）だった。実在の生物だけでなく空想動物、偽造動物、怪物、妖怪に至るまでを博物誌、発見史、神話・伝説・民話、伝承、美術、文学などにたずね、驚くべき数の博物画を添えて集大成した。

例えば図鑑1の「蟲類」は、なんと「人体寄生虫―腹の虫」から始まっている。アリストテレスの虫の記述から始まり、「虫が知らせる」という日本独特の言葉の背景分析にも至る。



荒俣宏(あらまた ひろし)

1947年東京都台東区生まれ。慶應大学法学部卒業後、日魯漁業(現マルハニチロ)入社。在勤中からSFの翻訳活動を始め、9年後に独立。以後、作家、博物学者、幻想文学研究者、タレントなどとして多彩な活動を展開。『理科系の文学誌』『帝都物語』『世界大博物図鑑』など著書多数。

「かつては腹の虫が鳴くのが聞こえる」と、それは病人の行く末を予言する霊の仕業だと信じられてきた。それに対して医者は、鳴き声の主を見つけ出そうと便を掻き分けるような作業までした。自然が科学や文学などへと分化する以前の知。それも含めた体系を描いてみたいと考えたのです」

それは、人間の歴史が生み出した想像力の起源を記述する作業でもあった。荒俣宏を「現代の本草学者」と呼びたくなるのも、それ故である。

博物学(Nature History)は、かつての日本では「本草学」と呼ばれ、18世紀に林羅山、貝原益軒、平賀源内などが動物や植物などの分類、定義、人との関わりなどの記述に力を注いだ。その流れは、源内の影響を受けて杉田玄白らが『解体新書』をまとめたように、近世から近代へ、つまり自然を科学的に認識する挑戦の源流となった。

好きなことをやり遂げる 「7勝8敗の人生」

「未来を見るには、我々が今、生きている世界の全体像を捉えなくてはならない。その営みが博物学や本草学なのです」とも言う。未来学が提唱されたとき、日本ではパラボラの未来を描く学問だと理解された。しかし本旨は、「このままでは未来はとてつもなく悪く、文明の崩壊に至る」という危機意識にあった。そのため欧米では、幻想文学や神智学なども含めた文明の全体像を把握する作業が始まり、その役割を担ったのが博物学だった。

「科学技術だけを一途に深めるのではなく、常にさまざまな知との組み合わせ作業を行わなければならぬことにならない。歴史に記されたものだけが文明ではないことを自省しながら取り組まなければ、未来を創ることはできないのです」

知の組み替えを可能にする博覧強記は、「人生は仮の舞台にあがっているようなもの」という人生観を支えられている。子ども時代の夜逃げ経験や祖父

の若すぎる死などから、「人生とは所詮そういうもの。ならば、やりたいことを徹底的にやり抜いてみよう」と思った」と言う。

しかし世の多くの人々は、それに憧れこそすれ、現実には仕事や家庭のしがらみの中にある。荒俣氏は、「3つのことを諦めればよい」と考えるようになり「た」ともいう。つまり、金持ちになる、偉い人になる、幸せな結婚をする、を諦めるのである。

「ありきたりな8勝7敗の人生と、やりたいことをやりきった7勝8敗の人生にはどれほどの差があるのでしょうか。僕は後者を選んだだけです」

世俗への執着ではなく、限りなく自己に執着する。それが道を拓く。

「この人の仕事は凄いと感じさせる人は、自らに執着できるための環境づくりに血眼になっています。成果を出して一流などと言われても、それは結果にしか過ぎないのです」

覚悟という言葉を一言も使わず、これほど深く覚悟を語る人はいない。

Contents

- 02 スペシャル・インタビュー【先駆者たち】
荒俣宏
(博物学者、幻想文学研究者、小説家)
- 04 Special Feature
**見えてきた
“Hydrogen Road”**
～水素社会の未来を拓く～
- 09 時代を切り拓く【Epoch Maker】
**LNG運搬船から
液化水素運搬船へ**
- 10 【TechnoBox】
**多機能型ロータリ除雪車
HTR300M**
- 12 【川に見る・日本の四季】
会津若松から「冬」を追う
- 14 HOT TOPICS

【表紙】
夜明けを迎える水素液化プラント(兵庫県・播磨工場にて)
→詳しくは「Special Feature」(4～8ページ)をご覧ください